

βάπτισμα

バプティスマ

知っておきたいキリスト教のことば (123)

洗礼 せんれい

洗礼はキリスト教への入信の儀式のことで、ほとんどの教会が聖奠(sacrament・秘跡)に定めています。原語である「バプティスマ」には「浸す」という意味があり、水に体を浸すことで罪を洗い清め、新しい生活を始めるということを示していました。

聖公会の祈祷書には、「洗礼とは何ですか」という質問に対し、このような答えが書かれています。聖霊の働きによって、わたしたちがキリストの死と復活にあずかり、新しく生まれるための聖奠です。(祈祷書 262 頁「教会問答」)

聖公会の洗礼式は、礼拝堂の後方でおこなわれることが多いようです。洗礼式を経て、洗礼者は会衆に迎えられていくのです。

洗礼には①水が振りかけられる(滴礼)、②水が注がれる(注礼)、③水に浸される(浸礼)という方法があります。教派や教会によってどのやり方でおこなうのかは決められていますので、「わたしはこれがいい！」などとは言わないようにしましょう。

ちなみに新共同訳聖書や聖書協会共同訳聖書には、「洗礼」の上に〔バプテスマ〕と小さな文字が書かれています。これはその通りに読みなさいということではありません。凡例には、「なお、訳語「洗礼」については、「せんれい」と読む場合のほか、「バプテスマ」と読む場合を考慮し、例外として〔バプテスマ〕の振り仮名を付した」とあります。そして日本聖公会の聖書日課には、「せんれいと読む」と書かれています。聖書を朗読するときには、覚えておくとよいですね。

洗礼を受けたいと思ったときには、教会の牧師に相談してください。勉強会や祈りを通じて、きっと良い方向に導いてくれるでしょう。「洗礼を受けなさい」というイエス様の言葉は、わたしたち一人ひとりに対しても送られているのですから。

次回は「洗礼名」です。楽しみに。



「キリストの洗礼」

ヴェロッキオ・ダ・ヴィンチ他

(1472～75 年頃製作)

彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。

(マタイによる福音書 28 章 19b～20a 節)

